

貨店の大關といへば世

しい代りに又金にもなる、概して此のモデルは二種の別がある。一つは本業のモデルで之は重に伊太利人の中に夫婦も子供も爺婆も家族が祖先の代よりモデル職業として居る一團がある其親戚の者も國許より亦來つて其群に投ずる其群の中には羅馬の古畫の如き骨格を有するもの有一は職業のモデルで重にギリシヤ邊に多いやうであるとしてギリシヤの勇士グラジャトールと稱する美術學校の常雇のモデルは筋の發達が圓潤で體格はギリシヤの彫刻に酷似して居た年齢は二拾四五歳の壯年で常に筋肉の發達に努めて居たことである

町料理店ろほに上ツテ酒を飲んだ女だぞと大に大盛氣を吹かした。こゝにはよきも翌朝午前十二時頃に至ると虎太郎は家人の陳を度ひ同様の押入にありたる衣類數點を大布疋敷に播きさらしける所、同様の女中へハ見せしめたる密と家人は告げたるより主人は直に之に取押へ其筋に訴出てたるが西區署よりは逡巡査出發の上同様に引致し取り調べたるのが結局條條の上と判り放還しやりたり

いざいざ問はん

我思ふ母國新聞(三府四十三縣に發行する)の總てを配達する取次店は有りや無しや御尋ねの方あらは

唯大成社 (本店 京城佛蘭館前事務處 支店 龍山漢江通參丁目 ありのみ) 御答可被下座

我探す店ありや

高等御下宿
開業御披露

京橋大和町一丁目(日の出橋東詰)

大和館

興味ある分配法

一人も當らぬ人なし

購買會の設立

簡便にして有益の方法
第一回入會者(三千口限)募集

●本會の目的 消費者自ら同盟して商店と特約を結び日用品を廉價に買入れんとするものにして總ての事務は本會にて取扱ふにより會員は極めて便利にして有益なるものなり

●會員は 一口分の會費として金三十錢を拂ひある毎に五錢づきに刻みある特約券を細考員が物と交換すべし

●寄附金は 特約店にて現金を以て買物の節金額の一割づゝ通用すべきものにし

りしが、金の似ひの奇麗なものと遊び振りの
大膽なものは何う見ても素正に世を渡るも
のとは思はれざるより大衆刑事今は一時も
留發出泰すし一昨夜御用の聲諸共に逮捕
し有無を言はせず本署に引致し嚴重なる訊
問をなせしが曲者は却々に白状せし唯事實
といふは自分は此の頃京城に來り商業を視
察せよと足留め旅の歸時に九州樓に
流連し十三日の夜新町の清月樓に登り同樓
の玉子といふ娼妓と相手にして囁きたる迄
のことなりと大衆刑事は却々に油斷せず今
に手を替へ品と替へて訊問をつけ居る由
なり因に嫌疑者の原籍は福岡縣久留米三井
郡にて姓名は若菜萬作(と)といふもの也と
らして漸々築き上げた店舗をも人手に渡
し楊句の果ては金はなくなる女に今捨て
前にも后にも進み兼ね寒天に大衆張揚げ
泣いて泣き別れたる惻れ恩か男の(此者
は)同地公園地裏通建屋職大草とて昨年冬
頃までは酒は無論の事煙草すら喫まぬ律儀
一逼の男にて從て商賈も繁昌せしが如何な
の天魔の魅入りしか無理強ひの酒が手傳
階元氣登しし處に怪し夢を結べるがをも
の起り當の數娼を誰れあらう前記館
發等のたづなりしなりしがさて如何な
分り盛の男も此の運に掛けては別物にて七
谷は夢は覺めても覺めやらぬ心の迷ひつ
られ得意を運る足はいつしか狂ひつゝ
の牢にのこるゑなりになり一日と

●過雁一聲　爰向大門外の某紳人家
屋に何れは若氣のいたりから、國語を吐き出
せしものとも思へる。若夫婦あり男は松浦
某といひ女は友松しかといへるが今当分
男女の素性を探つて見ると女といふは
本年四月頃大分縣なる故郷を後に見送
られ、妹を偲ひて、川原の叔母なる人を使
ひて、來身の振る方を叔母に頼みしも別
に堂上之身の振る方へもなきよししかは
他所當りの針仕事や洗濯などをして小
つかひを取らん。是れは年頃の娘のこ
とではあるし、

●猪獵の催し 慶尚北道海山郡染虫城を距る一里許りの山中に猪獵多々往日勿勿たる由なるが其後に同地方の大猪二頭を兎る猪獵多きより大郡理事廳内の好獵家は休日を獲り同地に猪獵の壯遊となんと目論見中なりと云へば當地の好獵家一番銃を肩にして出掛けては如何

●仁川の初雪 朝李の曇天氣さへへんく風が雨が將た雪かど氣つかひ降りたるも果して午前十時頃よりチラ／＼と白きも降り出し正午には綿の如く大くながの折の強風に和してマンチ巴／＼降りしきりし落て程經て小降となり四時頃降し止みし

て假令は金五十錢買物の節に正金四十五錢に特約券一枚を添へ使用せらるゝが如し又特約券のみにて買物の節は特約券一枚は買入金銀の割に相當するものとす利益會 會員は費餘十錢毎に七拾錢つゝの利益となるべきものに且福利引其他興味ある催し物ある時は加はれる事を待たざるなり

會費は 其の便超える時ば一任せられたるものにして本會は特約店より供給する物品の眞價と割引超過との差金を填補するの外殘金一總て本會の經費に充て終るものとす若し本會の收支計算に於て欠損を生じた場合有りて雖も會員に於て是等と與へるものにて消費費の徴収に關しては本會目的の事務を取扱ふの外會員に對し何等の義務責任を負担せざるものとす

會員は 入會後三日以内ならんば何時にても退會する事を得るものにして其場合に本會より交付の書類と返付しなれども會費の内金二十五錢を返還するものとす入會希望者は 前各項承諾の上來會せらるること(左)にて御知らせらるれば特約券並に福利引券等を持參す

第一回申込期日は 來年十二月五日迄

寄贈品福引目錄 (三千口に對し左の通)

寄贈品壹千圓代無進呈

するのみならず氏を知る一般の顧客は誰
も棄めず、さぬものはないううである生
廿一主人松浦氏は叔父甥の間柄だそう
辻屋商店
山脇林太郎
氏は廣島尾道市の、青年館二十七辻屋に
公したのは明治三十九年二月である之よ
先氏は郷里に於て普通學を修め練いて
の道の商業學校に入り三十二年七月月
間休學を卒業すると共に大に多年の積蓄を
學理と才能とを揮つて商業界に飛躍し
と思つて居る矢先は豫てより兵隊の癡癡
爲し居りし爲め一事志願兵となり戦ひ
露の戦役に従事し各地に轉戦して功績
したが戦役の終りを告ぐると共に満期登

可憐なる母と少女は其の後二三日を経て右の安宿をば立ち出で何れへか変つて隠したるの所によれば母といふは福岡縣若松市に於てのにて、三年前、關に於て夫と共に青物商を營み可なりな家計と立て居りしも或る時夫が他の商賣に手を出し其の獨り散々失敗を招き今は親子三人の生計を覺えずとなりしより昨昨夫は此の失敗を挽回せんものゝを雄々しくも志を決し妻子に篤く言ひ合めて郷里には若松の舊家に托し然るに韓國に渡り身は此れ一個の朝市商人と成り下りて而の朝も風の夕も怠りなく商賣に勉強し居れるが壽變つて國計に取り

くならしがねつるも左る者大谷の様子をく見て取るや下帯解ひててもなしたれど追に咬なりし鐵壁心も鈴の如く鈴け女に金ををせがまれては札びらを切り帶を無心されては松屋 近江屋と件れ歩き云々錦製の儘になりたれば時々間に金金は上窮に陥りいつその事女と駆け落ちせんと欲を求め時間を定めて扭腰停車場に至りては女の愛見をさるにぞ大谷は痛く落膽しては女の薄情を恨むと共に漸く改換しとも通り商賣に身を入ることゝなりた

●面白く陽氣な商賣

二つには便り者なれば何れへか良縁もあ
は嫁入りさせんものとを心配し居る中此
家に以前より屬々遊びに来る若者ありし
年頃の男女のこととしていつしか互に思ひ
は終に割なき仲となりしはよきも娘は
母の家に居つては思ふやうに樂みも出来
ぬの所より或る夜男と手を取つて駆け落
と洒落れ前説の所に假りの世帯を持ちた
る女は近頃に至りて仁川の叔母が戀しく
り明け暮れ東の空を打ち眺めては折柄の
聲に一しは心を痛め居るどうか

同可娛欄(廿四)

怪談正調 魚友痴史
(十二日本紙三面記事参照)

◆今様石童丸

是が今年に入つての仁川の初疫なり
●十月申流行病 十月申發生したる流行病二十二人内全治六人死亡四人現在青坡院入院者十二人あり

今般贊化病院副院長
ヲ辭シ左記ノ處ニ開業
大和町訂丁目貳百四番戸（乳牛平出）
爲春堂醫藥
古 城 側

●天氣豫報 自十四日午後六時
北文は曇後晴
十四日午前六時各地氣象概況
尙高氣壓は堅し北文は西風吹き概ね晴なり
れども北部は曇天の所あり

時時吉院牛長行

等	二	一	三	四	五	六	七	八	合
級	等	等	等	等	等	等	等	特約店	等特約店
總價額	四拾圓	四拾圓	六拾圓	三拾圓	三拾圓	五拾圓	五十圓	七十圓	七百圓
品名並二寄贈店名	甘國吳服切手一枚宛菊商店同寄贈	清酒金露大樽一枚宛同	婦人精緻胸懷中時計一個宛同	清酒三升券一個宛同	高尙信玄袋一個宛同	莫大小シャヅ一個宛同	上等手袋一個宛同	甲上等石鹼二個壹圓宛價廿五錢	乙紳士用御名刺百枚宛價廿五錢
當籤人員	二人	二人	六人	廿二人	廿二人	五十人	二百人	八百人	三千人

寄贈品の見本は各寄贈店に陳列しあり五六七八等品の一部は當會事務所に
陳列しあり就て御覽下されしより五七八等品の一部は當會事務所に
常何特約店より御賛成御入券せよと會員各位の御厚意に酬ひん爲め右の通り之寄贈品
賞物たるを以て當會は福引券により是を分配すべし即ち其福引方法は
一、福引券は會費金全十錢御拂込の節一の特約券を御渡し申すと同時に番號入
福引券一枚を進呈すべし

十二月九日午前九時

も公平に實行す當日何人も御來觀御隨意のこと御來觀會員の内より五名以上の立會

となるや直ぐさ渡韓して主屋の店員をつたのである氏は現今同店の店員中での地位を占め常に韓幕に奉じて商賣秘し専ら主人を助けて店達の隆盛に餘念なく果て成り一騎攀上りて端緒あるに及ぶ勇退し其熱秘酸味の跡を一同達で欲罷なく能はざらしむるものがある

商才十塊とは氏の如き物をいふのでう而も氏や幸ひに前途遠望はよく今年、日の如く此商才十塊と學理とて前には同物とせしめれば商界の大に奮勵提起せんとせしめば止ま

威され明け暮れ夫の出世父の立身を神佛掛
 けて祈り居る妻子のものは夫が他日錦を着
 て故郷に歸る迄もせぬ何程かの貯金を爲
 し置かんと自分とは姑く姑方の方便を世語
 して聞も特懸に余所の洗濯裁縫に世話を
 娘は他家の守本公に遣りて強かに給金を取
 らしめ唯か夫の歸るを指折り數へて待ち居
 る中にも其の家姑といふが人並勝れて意
 地悪く少し許りの誤りを乘に取つては口汚
 く罵りながら出て行かしたに取替る果ては
 個々母に逢ひに来る娘ともいふ程に惡口
 を併べ殆んど身の置き所もない程に虚勢せ
 るるをを絶に妻は涙り兼ね實家に逃げ去
 るをを

日本では日本書にモデルの必要を認めな
 い最近のことであるから世間では物珍ら
 しい現や斯う騒ぎ立てるで學校は非常に
 感々然ることがあるがまづ最初世界で美
 の本場たる佛國巴里に於けるモデルの野
 心聞くと巴里の美術學校へは毎月曜日午
 女十四五人のモデルが來て居つて呉れ
 返をする餘りの者は直ちに希望者を裸
 體格として適宜であるとするで四週
 週間の分を豫約するそで畫師は學
 外自分の家にも湯室を持つて居つてモ
 デルを學校の歸りに家迄連れて行くから

切れぬ親子の縁のいどころ
 何んぞせいさう胸の焼
 ▲不親に醫者
 慾が深敷た金欲殿も
 粗服も同憎くい醫師
 ▲威珍藝妓上
 時を江上に各々たか助の
 前身 假合はぬ心がけ
 狂から窃盜
 町四丁目十六番目下西大門外鐵道官
 十四號印刷職工寺原虎太郎(一)及の同業
 仲間の小幡某二人は一昨日午後十時頃

廣告

本廣二町筋丁上
高等御下宿

目リル
西左
商手
店ニ

國分旅

喜町二丁目

永樂則一丁目

嬉

本廣五丁目より
移來客居住居候上膳料其他致し閑靜な候に付承當り御座遊の程奉願上候

待合

工六
太平
工六
太平

三、發賣は、一、二、三等の當發者は直ちに新聞紙上を以てし其他は當會事務所に並に各格約店に掲示すべし

四、物品は十二月十日より二十五日の間に於て福引券引替に御渡申すべし若し御受取りなき時は當方より配達する其適合には配達員一錢御支拂下さりたし八等當級の向へは甲乙何れの御希望の品差上げ申すべし

京城南山町三丁目日本人俱樂部前
京城購買組合會

明治四十一年十一月

行法の
甲華材料は柔軟にして丈夫なる
クロム酸Aボックススプレー

新造文の魚は魚足氣の上路其の周圍を鉛筆にて裏面に引き銀足の實形を取り御越の事又は御常用の日本袋文數御通知の事電報電話郵傳芝園愛宕下町振替貯金所大森龜田靴商店

野人入る強仕

譯細なる
質銳及品
法用す
第次衣飾
御呈す

野人入る強仕

電話(五七一番)

-444-